

2025年(令和7年)度 事業報告書

2025年4月1日より2026年3月31日まで

第1 公益目的事業

定款第4条に掲げる事業は、次の計画により行った。

公1 がんに関する学術研究集会の定期開催、ならびに海外学術調査研究事業

① 国際がんシンポジウム事業(第43回)

第43回国際がんシンポジウムは2025年7月5日～6日の2日間、国内外から25名の研究者を招き、7つのセッションと2つのランチョンセミナー、3つのレクチャー、28演題のポスター発表がなされた。会場はグランドメルキュール札幌大通公園、テーマは「新技術によるがん進展の解明(Cancer evolution revealed by new technology)」、代表世話人は京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座教授の小川誠司氏で、113名の参加者を得て盛会裏に終了した。

② 冬季がんセミナー事業(第40回)

2026年1月31日(土)、道内外から9名のがん研究者を招き、ランチョンセミナー、イブニングセミナーを含む10演題を対面形式で開催した。テーマは「いまがんを考える2026 ～多様な選択肢から導く、個々に最適ながん治療とは～」、代表世話人は国家公務員共済組合連合会 斗南病院 副院長の辻靖氏で、計85名の参加者を得て盛会裏に終了した。

③ 市民がつくる春のがんセミナー事業

2026年3月28日(土)、北海道医師会館8階会議室にて開催した。晴生会さっぽろ病院の河原崎暢氏、北斗病院の中村透氏のお2人にご講演をいただき、62名の参加者で盛会裏に終了した(北海道医師会との共催)。

公2 がん予防・啓発、ならびにがん相談事業

④ がん啓発・予防事業

④-1) 子どもに対するがん教育事業

札幌市教育委員会と連携して、インセンティブ・ファンドを札幌市内の小学校4校(三角山小学校、信濃小学校、新陵小学校、大谷地東小学校)、中学校2校(美香保中学校、手稲西中学校)の計6校に支給し、活動を行ってもらった。

出前授業を行う外部講師への支援事業は札幌市ウェルネス推進部と連携し、応募のあった小学校15校、中学校1校、高等支援学校1校の計17校へ支援した。講師の内訳は医師9名、看護師3名、がん経験者5名であった。なお、謝金の支給は札幌市ウェルネス推進部から行っており、当財団としては事業支援のみ。

④-2) がん相談事業

がん患者及び家族への無料相談を事務局にて行った。

⑤ 広報関連事業

広報誌 The Way Forward を年2回作成し、関係機関へ配布した。その他、ホームページの更新、Facebook、X への投稿を行い、財団活動を広く周知した。

公3 医学・医療・福祉など関係の学会研究の助成事業

⑥ 学会助成・表彰事業

学会助成については本年度は申し込みがなかったため助成事業は行わなかった。

表彰事業については、札幌市ウェルネス推進部と提携して市井で健康増進活動に尽力している2団体を選考し表彰を行った。